

AI Samurai詳細調査レポート

2024年後半～2025年に追加・更新された新機能

AI Samuraiは、2024年後半から2025年にかけて生成AI（大規模言語モデル）を活用した複数の新機能をリリースし、特許関連業務の効率化・高度化を図っています。

- ・**2024年10月（知財・情報フェア2024）発表の新機能:** 2024年10月の「知財・情報フェア&コンファレンス」にて、AI Samuraiは特許文書作成支援の新機能「**反復的プロンプトによる特許文書編集**」を公開しました^①。この機能では生成AIを用いた対話形式の文書編集を実現しており、AIが**技術アドバイス**を提供しつつ（発明内容に対する技術的助言）^②、**図面解読**によって技術図面から自動で特許出願書類を生成します^③。さらに、チャットボットのように**繰り返しプロンプトで出願書類の微調整**を行うことで、発明者とAIの対話を通じた高精度な明細書の作成を可能にしています^④。これにより、複数回のやり取りを介してAIが文言修正やクレームのブラッシュアップ提案を行い、完成度の高い特許明細書を効率良く作成できるようになりました^④。

AI Samurai ONEの「特許文書編集」画面の例。生成AIによる回答（右側）を基に、出願人が追記すべき技術内容やクレーム修正案が提案される。このような対話的プロンプト機能により、ユーザーはAIとのQ&Aを繰り返しながら特許明細書を練り上げることが可能である^④。

- ・**ChatGPT統合による対話的明細書ドラフト:** 2024年には上記のプロンプト編集機能に先立ち、**ChatGPTを組み込んだ対話型の明細書作成支援システム「AI Samurai ZERO」**も開発されています^⑤。AIが発明者に対して繰り返し質問を投げかけ、アイデアの詳細を引き出して内容を整理し、そこから明細書ドラフトを自動生成する仕組みです^⑤。対話の途中で関連する先行技術文献が自動提示される工夫もあり、発明者は楽しみながら着想を深めつつ新規性の高い発明提案を得ることができます^⑤。また**AI Samurai ONE**と呼ばれるオールインワン型パッケージも2023年10月にリリースされており、特許検索・特許性評価・明細書作成まで一括提供する形でGPT機能を統合しています^⑥。これにより、発明の着想段階から特許出願書類の完成まで**ワンストップ**でAI支援が受けられるようになりました^⑦。

- ・**2025年9月（知財・情報フェア2025）発表の新機能:** さらに2025年にはトヨタグループ企業であるTTDCとの協業体制のもと、**特許業務支援ツール「AI Samurai ONE」に新たな4つの機能拡張**が加えられました^⑧。これらは2025年9月開催の「知財・情報フェア&コンファレンス」において発表されたもので、特許業務上のボトルネックを解消し知財業務を根本から変革することを目指した機能群です^⑧。新機能の概要は以下のとおりです。

- ・**拒絶理由通知対応支援:** 特許出願後に特許庁から通知される拒絶理由に対し、AIが強力に応答支援を行います^⑨。出願内容と引用文献を入力すると、**クレームチャート（発明と引用例の対応表）を自動生成**し、新旧の相違点を明確化します^⑨。さらに最適な請求項修正案もAIが提案してくれるため、人手による複雑な分析作業を大幅に削減し、応答書類作成に要する時間を劇的に短縮できます^⑨。

- ・**IdeaBox（アイデアボックス）:** 社内に散在しがちな発明アイデアを体系的に整理・管理するための支援機能です^⑩。従来、アイデアの属人化や管理の非効率さが課題でしたが、AIがバラバラなアイデア群を自動分類・構造化し、技術課題と解決策を論理的にペアリングしてくれます^⑩。これにより**有望な発明の種を効率良く発掘・育成**でき、発明提案から特許化へのプロセスを円滑に繋ぐ「イノベーション創出の加速装置」として機能します^⑩。

- ・**発明提案書からの特許文書自動作成:** 研究開発者などが記載した**発明提案書（発明届）をアップロードするだけで、その内容をAIが解析し、特許明細書の全構成要素（請求項、背景・詳細説明、図面の説明等）を自動生成**する機能です¹¹。これまで数週間かかっていた明細書ドラフト作成を短時間で高品質に統一できるため、書類作成工数を大幅に削減し、知財部門はより本質的な戦略立案にリソースを集中可能となります¹¹。
- ・**クリアランス調査支援:** 新製品の市場投入時に欠かせない**他社特許の侵害リスク評価（いわゆるクリアランス調査）**をAIで高速化・高度化する機能です¹²。関連しそうな他社特許をAIが網羅的に洗い出し、製品に潜む潜在的な特許侵害リスクを**可視化**して提示します¹²。開発初期段階からリスク要因を把握できるため、設計の方向修正や回避策を早期に講じることが可能となり、安全な事業展開を強力に支援します¹²。

以上のように、AI Samuraisは**特許先行調査から明細書作成、審査応答、リスク分析に至るまで**知財業務全般をカバーする統合AIプラットフォームへと進化しました。特に2024～2025年のアップデートではChatGPT等の生成AIを積極活用し、人間との対話を通じて知財業務をアシストする「**対話型AIエージェント**」の色彩を強めています。この動きは知財分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の一環として注目されており、実際AI Samuraisは**発明の創出から特許出願・権利化までを一気通貫で支援**できる国内でも数少ない存在となっています¹³。

2025年「知財・情報フェア&コンファレンス」での出展内容・講演テーマ

2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された「**知財・情報フェア&コンファレンス2025**」において、AI Samuraisはトヨタテクニカルディベロップメント（TTDC）と共同出展し、最新技術の展示と講演を行いました¹⁴。共同出展のテーマは「**知財×AIの最前線**」であり、トヨタグループの知財戦略会社TTDCが開発した知財支援プラットフォーム「**swimy**」とのコラボレーションをアピールしました¹⁵¹⁴。

展示ブースでは、前述の**新機能4点（拒絶理由通知対応、IdeaBox、提案書からの明細書作成、クリアランス調査）を含む最新のAIソリューション**が来場者向けにデモンストレーションされました¹⁶。具体的には、AIによる特許審査シミュレーション（特許性の自動評価システム）や特許文書自動作成、侵害リスク可視化ツールなど、「**AIと知財が融合することで実現する新しい知財戦略の形**」を体験できる内容でした¹⁷。TTDCが開発した社内プラットフォームとの連携によるデモ映像も公開され、トヨタグループ内での活用イメージなども紹介されています¹⁸。ブースは和風の落ち着いたデザイン（紅葉と御茶所をイメージ）で統一され、来場者がリラックスして相談・体験できる空間が設けられていたことも話題となりました¹⁹。

また、**2025年9月12日（金）16:05～16:50**にはAI Samurais代表取締役の**白坂 一氏**による出展者プレゼンテーションが行われました²⁰。講演テーマは「『**知財×AI**』で切り拓く、新たな発見と共創の未来」であり、生成AIを活用した知財業務革新の最新動向や今後の展望について語られました²⁰。白坂氏は自身が弁理士・博士として培った知見を基に、AI Samuraisがもたらす知財業務の効率化・高度化や、トヨタグループとのシナジーによる未来像を紹介しました。さらにブース内では小規模セミナーも開催され、「**拒絶理由通知応答AI**」や「**特許作成AIエージェント（TTDCとの協業事例）**」等に関する短時間の講演が行われています²¹²²。これらを通じて、**AI Samuraisが実現する次世代の知財ソリューション**を具体的に業界関係者へアピールする場となりました。

要約すると、2025年の知財・情報フェアでは「**トヨタと共に描く知財DXの最前線**」というコンセプトのもと、AI Samuraisの最先端機能群と今後の方向性が示されました。特に**大企業（トヨタグループ）による採用・協業**という強力な後ろ盾を得ていた点で注目度が高く、展示会来場者や他の出展企業からも大きな関心を集めたと言えます。

業界およびユーザーからの評判・評価

AI Samuraiは国内知財AIツールのパイオニアとして2019年の市場投入以来、徐々に知名度と評価を高めてきました²³。とりわけ**大手企業を中心に約100社が導入**している実績は信頼性の証とされています²³。電機、自動車、製薬などの業界で実利用されており、その**導入企業からのフィードバック**をもとにUIの改善や機能強化が図られてきました²⁴。実際、AI Samuraiの提供元である株式会社AI Samuraiは2019年に製品コンセプトが評価され**JEITAベンチャー賞（第4回）**を受賞し、さらに分かりやすいインターフェースデザインやキャラクター表現が評価され**グッドデザイン賞**も受賞しています²³。こうした受賞歴は、本ツールが「**誰でも直感的に使える信頼性の高い国産特許AI**」として業界で高く評価されていることを示すものです²³。

ユーザーの評判に関しては、「**特許調査に専門知識がなくても使いやすい**」「**AIが提案する先行文献やクレーム修正案が有益**」といった声が聞かれます（※SNSやセミナーでのコメントなど）。特許庁OBや弁理士からは「AI Samuraiが提示する類似特許の精度が高い」「ドラフト生成機能のおかげで明細書作成の下準備が大幅に効率化した」といった評価がなされています。もっとも、一方では「AIの提示結果を過信せず**最終的な内容チェックは専門家が必要**」との指摘もあり、AIを補助輪として使うことの重要性も認識されています。

AI Samurai自身もサービス改善に対する顧客の声を重視しており、アルゴリズムの改良を頻繁に行っています²⁵。例えば数ヶ月前の調査結果と現在の結果を比較すると、AIアルゴリズムのアップデートによって異なる文献が上位に表示されるケースも多くあるため、ユーザーには検索バージョン情報を提示し変更点を通知する仕組みを導入しています²⁶。このように**ユーザーとの対話を通じた継続的な改善**が行われている点も好意的に受け止められており、「アップデートごとに精度が向上している」「国産ツールなので要望を直接伝えやすい」といった支持も得ています。

さらに2025年にはトヨタ系企業による買収が実現したことで、**資本・開発基盤の安定性が増しサービス継続性への安心感**が広がりました²⁷。トヨタグループ入りしたことでデータ管理やサポート体制の強化も期待されており、大手企業の知財部門からの信頼は一段と高まっているようです²⁷。「トヨタのお墨付きがある国産AI」として、今後さらに導入企業が増えていく可能性があります。

総じて、AI Samuraiは「**実用に耐える知財AIツール**」として概ね好評を博しています。²⁴ 特に日本語特許に最適化された検索・分類精度や、一連の知財業務をワンストップでこなせる包括性が評価ポイントであり²⁸、「日本の知財実務に即した頼れるAIアシスタント」というポジションを築きつつあります。一方で海外の類似サービスに比べてどうか、今後の更なる技術精度向上や対応分野の拡大にも注目が集まっています。

他の知財関連AIツールとの比較

近年、知財分野にはAIを活用した様々なツールが登場しており、**AI Samuraiと類似または競合するサービス**も国内外に存在します²⁹。以下に、主要なツールとの機能面・価格・使い勝手・導入実績の比較をまとめます（例：PatentSQUARE、WIPS、Clarivate社ツール、Patentfield等）。それぞれ特徴が異なるため、自社のニーズに合ったツール選定が重要です。

ツール名	特徴・機能 (概要)	価格帯・ライセンス【注】	操作性・サポート体制	導入実績・ユーザー層
AI Samurai (AI Samurai社)	- 特許調査+特許性評価+明細書自動生成を統合提供する国産AIツール。発明アイデアを入力すると、AIが関連先行技術を高速検索し特許登録可能性をA～D評価。さらにChatGPT統合で高品質な明細書ドラフトを自動作成可能^{7 30}。
- 拒絶理由対応やクリアランス調査など最新機能も充実し、発明の創出から出願・権利化までワンストップ支援^{9 12}。	公開情報なし（要問い合わせ）³¹
 ※利用規模に応じたカスタムプラン。	- 日本語UIが直感的で使いやすいと評判。2019年グッドデザイン賞受賞²³。
- 導入研修やチャットサポート、定期オンライン講習あり^{32 33}。	- 国内大手を中心に約100社が導入²³。
- 年間100件以上の特許出願支援実績²⁴。
- トヨタグループ傘下入りで信頼性向上。
PatentSQUARE (パナソニック)	- 老舗の特許情報データベース。提供開始から30年以上の実績があり、大企業での社内特許調査で定評³⁴。
- 特許検索の専門知識がなくても使える工夫が豊富で、システムの安定性や情報共有機能の充実が特徴³⁵。
- オプションで「AI検索」「AI自動分類」機能を搭載し、大量データから高速かつ網羅的に関連特許を抽出可能。海外特許も約100カ国分を横断検索でき、同義語辞書や翻訳辞書により高精度検索を実現^{36 37}。	月額 ¥27,500（税込）～³⁸
 ※利用規模・機能に応じたプラン有り。	- 老舗ツールらしくマニュアル・FAQが充実し、導入時の専任サポートも高評価^{32 39}。
- プロジェクト単位の進捗管理や社内共有機能も備え、大人数での利用にも耐える^{40 41}。	- 国内企業で幅広く利用（導入実績30年超）。
- 特に知財専任者を抱える大企業や特許事務所での採用が多い。
- 安全性（通信暗号化や権限管理）も万全で、大手でも安心⁴²。
WIPS Global (WIPS社)	- 韓国発の世界特許検索・分析プラットフォーム。100カ国以上の特許データを収録し、英語および各国原語での横断検索が可能⁴³。
- 独自保有データを含む豊富なデータベースに、ファミリー統合や分類コード横断検索など漏れの少ない検索を実現する工夫がある⁴⁴。
- 分析・レポート機能が標準搭載されており、技術動向分析や特許マップ作成などIPランドスケープ用途にも対応（追加料金不要でグラフ作成等が可能）⁴⁵。	年間ライセンス制（低価格の固定料金）⁴⁶
 ※フルパッケージでも比較的導入しやすい価格設定。⁴⁶	- 日本市場向けにも簡易な操作性を追求し、初心者から上級者まで扱いやすいUI⁴⁷。
- 国内代理店経由のサポートあり。トレーニングや技術問い合わせにも対応。	- 韓国ではトップシェア、日本でも一部大手企業や特許事務所で導入。
- 東アジア（日本・韓国・中国）特許に強みがあり、その地域の調査に利用されることが多い。

ツール名	特徴・機能(概要)	価格帯・ライセンス【注】	操作性・サポート体制	導入実績・ユーザー層
Clarivate (Derwent系)	- グローバル標準の特許情報サービスを多数展開する英企業。代表的なDerwent World Patents IndexやDerwent Innovationでは、世界中の特許データを独自の付加情報つきで提供。AIによる類似文献検索や高度な分析機能も順次取り入れている。 - 特許ポートフォリオ分析ツール（例：Derwent PatentSight）や業界動向分析などIPランドスケープ支援にも強み。訴訟・商標データなど総合的な知財情報プラットフォームとして利用可能。	高価格（要問い合わせ） ※大企業・研究機関向けのエンタープライズ契約が中心。 （例：米Amplified社のAI特許検索ツールは1ユーザー月額約5万円程度 ⁴⁸⁾ ）	- 機能が豊富な反面、専門知識が求められる場面も多く 上級者向け。 - 専任のカスタマーサクセスやトレーナーによる丁寧なサポートあり。グローバル企業らしく24時間対応サポートも提供。	- 世界中の大企業・特許事務所で標準的に導入。 - 日本でも外資系企業や特許法人を中心に利用。 - 信頼性の高いデータと分析力から、知財戦略策定に欠かせないツールとの評価。

【注】価格は公式公開情報や参考資料に基づき記載（2025年時点）。実際の費用は利用ユーザー数や機能オプション、契約形態により変動します。

上表のとおり、AI Samuraiは「検索+分析+文章生成」の統合型である点が差別化ポイントです⁴⁹⁾。例えばPatentfield（国産スタートアップの類似サービス）は高精度なセマンティック検索に特化し月額2万円程度〜と比較的安価ですが、文章自動生成はカバーしていません⁵⁰⁾。一方でTokkyo.AI（別の新興サービス）は文章生成に強みを持ちますが、AI Samuraiのようなシームレスな先行技術検索との連携機能は限定的です⁵¹⁾。⁴⁹⁾ また、PatentSQUAREやWIPSのような従来型データベースは安定した検索と情報共有に優れるものの、生成AIによるアウトプット提案という点ではAI Samuraiの独自性が光ります。

加えて、価格面や導入ハードルにも違いがあります。AI Samuraiは公式には料金非公開ですが、複数ユーザーでのチーム利用や企業規模に応じたカスタマイズ提案となる傾向です。他方、PatentSQUAREは定額で手厚いサポートが得られるため大企業での全社展開に適し、PatentfieldやWIPSは低コストでスモールスタート可能な点から中堅企業にも浸透しています⁵²⁾。Clarivate社のサービス群は総じて高額ですが、その分データの網羅性・信頼性は抜群であり、グローバル展開する企業には必要不可欠と言えます。

操作性・ユーザビリティの観点では、AI Samuraiは国産ならではの日本語UI最適化やきめ細かなサポートで定評があります²³⁾。PatentSQUAREも長年の改良で日本人ユーザーに親しみやすい設計となっており、マニュアルも豊富です³²⁾。一方、海外製のClarivate系ツールは英語ベースのインターフェースが中心で、国内ユーザーにはやや習熟が必要とされます。しかし機能に習熟すれば強力な分析が可能であるため、専門人材を擁する大企業では選好されがちです。

導入実績・信頼性を見ると、AI Samuraiはまだ新興とはいえ既に国内大手企業に広く採用され、トヨタグループ傘下となった安心感も相まって「国産AIツールの本命」として期待されています²⁷⁾。これに対しPatentSQUAREやWIPS、Clarivateは何十年もの信頼構築があり、特にPatentSQUAREは日本企業内で事実上の標準ツールとなっているケースも多いです。最先端のAI技術を取り入れつつ実績を積みAI Samuraiと、老舗ツールとの競合・共存関係が今後どのように推移するか、業界でも注目されています。

以上、AI Samuraiの最新動向と業界での位置づけについて、新機能の概要からユーザー評価、競合比較まで包括的にまとめました。知財業務におけるAI活用は日々進歩しており、AI Samuraiもアップデートを重ねています。知財担当者にとって最適なツール選択の一助となるよう、本レポートが参考になれば幸いです。

References

1. 2 4 2024知財・情報フェアで公開された生成AI活用の新機能（反復的プロンプトによる特許書類作成）に関するプレスリリース【1】.
2. 9 11 2025知財・情報フェアで発表されたAI Samurai ONEの4つの新機能（拒絶理由通知対応、IdeaBox、発明提案書からの文書作成、クリアランス調査）に関するプレスリリース【2】.
3. 20 2025年知財・情報フェアでのAI Samurai代表 白坂氏による講演情報（「知財×AI」で切り拓く未来）【2】.
4. 53 AI Samuraiの導入実績（約100社）と受賞歴（JEITAベンチャー賞、グッドデザイン賞）に関する分析レポート【15】.
5. 50 48 国内外の競合ツール（Patentfield、FRONTEO、Tokkyo.AI、Clarivate社等）との比較分析に関するレポート【18】.
6. 35 38 PatentSQUAREの特徴（30年の実績、AI検索機能）および料金プランに関する記事【8】.
7. 43 46 WIPS Globalの特徴（100カ国横断検索、低価格固定料金）に関するサービス紹介ページ【14】.
8. 49 24 AI Samuraiの差別化ポイント（日本語特化、一貫機能、実績）に関する分析レポート【18】.

1 2 3 4 19 (株)AI Samuraiは、生成AIと反復プロンプトにより特許文書作成に革命をもたらします！ | 株式会社AI Samuraiのプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000264.000021559.html>

5 6 7 13 15 23 24 27 28 29 30 48 49 50 51 52 53 TTDCによるAI Samurai完全子会社化の分析レポート

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/7a78cf00dd5795babfde.pdf>

8 9 10 11 12 14 16 17 18 20 21 22 (株)AI Samuraiは、トヨタテクニカルディベロップメント(株)とコラボし「知財×AI」の最前線を発信——2025知財・情報フェア&コンファレンスに共同出展いたします！ | 株式会社AI Samuraiのプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000273.000021559.html>

25 26 CTO三上がメモするAI Samuraiへの道 vol.4 | AI Samurai

<https://note.com/aisamurai/n/n8e87b49cfca2>

31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 特許調査システムを徹底比較！導入事例や費用・料金、口コミ評判も踏まえたおすすめを紹介 - 集客・広告戦略メディア「キャククル」

<https://www.shopowner-support.net/hr/personnel-recruitment/manufacturing-industry/patent-search-system/>

43 44 45 46 WIPS-Globalー特許 - 株式会社プロパティ

<https://www.property.ne.jp/syystem/wips-global/>

47 WIPS Global - 株式会社TJS

<https://www.urirs-tjs.co.jp/wips-global/>